

■コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり6.17人の報告があり、多い状況が続いています。肺炎マイコプラズマという細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症で、小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多いものの一つです。
長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

2 感染性胃腸炎

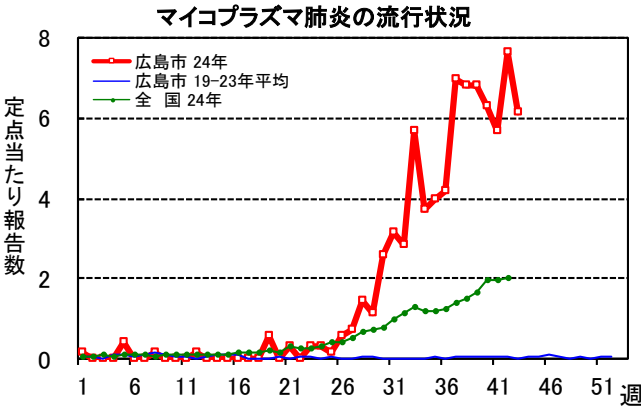
定点当たり4.09人の報告があり、増加が続いています。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など、感染予防対策を心がけましょう。

3 百日咳

7件の報告があり、今年の累計は23件となりました。(次ページ参照)

4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり1.00人の報告がありました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	12	0.33	3.89		小児科	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.68	
	新型コロナ(COVID-19)	36	1.00				流行性耳下腺炎	-	-	0.06	
小児科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.39		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.52			流行性角結膜炎	3	0.38	0.63	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.09	0.97		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	94	4.09	2.60			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	5	0.22	0.13			マイコプラズマ肺炎	37	6.17	-	
	手足口病	27	1.17	1.28			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.08			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.17	-	
	突発性発しん	4	0.17	0.28							

急増減
増減
微増減
横ばい

前週と比較しておおむね1:2以上の増減
前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	重症熱性血小板減少症候群	1	2	50歳代・市外
4	レジオネラ症	1	19	40歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	7	60歳代・感染者
5	梅毒	3	140	20歳代、30歳代、40歳代
5	百日咳	7	23	10歳未満・2人、10歳代・3人、30歳代・1人、80歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			感染症胃腸炎 (ロタウイルス) クラミジア肺炎 マイコプラズマ肺炎 無菌性髄膜炎 細菌性髄膜炎 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 流行性耳下腺炎 ヘルパンギーナ 突発性発しん 伝染性紅斑 手足口病 水痘 感染性胃腸炎 A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎 咽頭結膜熱 RSウイルス 新型コロナ (COVID-19) インフルエンザ																			
報告数	広島市	第39週	7	55	4	2	43	61	6	50	-	4	3	-	-	7	-	-	41	-	-	
		第40週	18	54	7	1	33	48	1	38	-	7	2	-	-	5	-	-	38	-	-	
		第41週	21	27	12	5	56	54	3	44	2	5	1	-	-	6	-	-	34	-	-	
		第42週	10	30	1	5	38	75	3	34	-	4	1	1	-	7	-	-	46	-	-	
		第43週	12	36	4	4	48	94	5	27	-	4	1	-	-	3	-	-	37	-	1	
定点当たり	広島市	第39週	0.19	1.53	0.17	0.09	1.87	2.65	0.26	2.17	-	0.17	0.13	-	-	0.88	-	-	6.83	-	-	
		第40週	0.50	1.50	0.30	0.04	1.43	2.09	0.04	1.65	-	0.30	0.09	-	-	0.63	-	-	6.33	-	-	
		第41週	0.58	0.75	0.52	0.22	2.43	2.35	0.13	1.91	0.09	0.22	0.04	-	-	0.75	-	-	5.67	-	-	
		第42週	0.28	0.83	0.04	0.22	1.65	3.26	0.13	1.48	-	0.17	0.04	0.04	-	0.88	-	-	7.67	-	-	
		第43週	0.33	1.00	0.17	0.17	2.09	4.09	0.22	1.17	-	0.17	0.04	-	-	0.38	-	-	6.17	-	0.17	
全国	第41週	0.89	2.38	0.32	0.22	2.00	2.64	0.15	10.78	0.25	0.25	0.38	0.03	0.01	0.50	0.02	0.06	1.95	-	0.01		
	第42週	0.73	1.86	0.25	0.19	1.70	2.29	0.14	9.37	0.33	0.24	0.26	0.04	0.01	0.38	0.01	0.04	2.01	0.01	-		

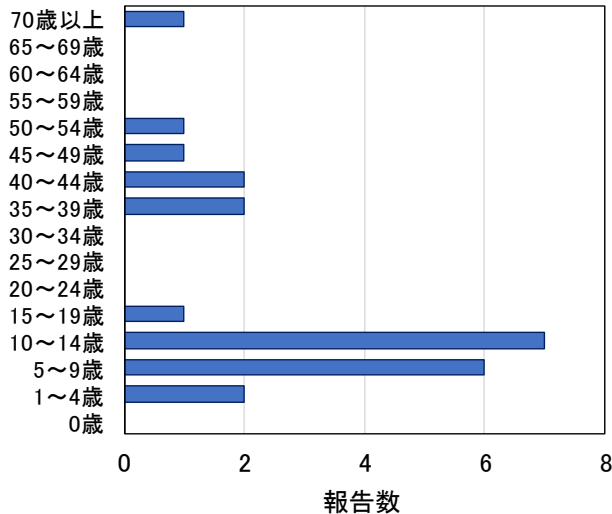
■ 新たに判明した病原体検出状況

						(検査: 広島市衛生研究所)
診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体	
インフルエンザ	発熱(38.8℃)	3	2024/10/04	鼻汁(拭い液)	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型	

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】百日咳について

広島市の百日咳 年齢階層別報告数
2024年累計(第43週現在)



百日咳は、百日咳菌によって起こる急性の気道感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。患者は小児が中心ですが、いずれの年齢でもかかります。

7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のような音が出る発作性の咳となり、しばしば嘔吐を伴います。

成人の場合は、咳が長期にわたって持続しますが、典型的な症状を示すことが少なく百日咳とわかりにくい。ため、周囲に感染を広げてしまうことがあり、注意が必要です。

肺炎や脳症などを合併することもあり、1歳以下の乳児、特に生後6か月未満の乳児は重症化のリスクが高く、注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

【参考】
百日咳とは(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp